

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.9〉

<西宇部① 特徴>

宇部市西部に位置する西宇部地区は、厚南、藤山、厚東の各地区と、山陽小野田市に接し、JR山陽線と宇部線の2路線が乗り入れる宇部駅を有する。駅の南側にはスーパーや飲食店がそろい、昭和初期までの約200年にわたって舟が往来した沖ノ旦の「渡し場跡」など、地区の歴史を今に伝える史跡も点在する。



宇部駅の開業後、飛躍的に発展

南は商業地、北は住宅地



もともとは原、黒石と共に厚南地区に属していた。市街地からの人口流入に伴う厚南小の児童数の増加を受け、1981年4月に西宇部小が産声を上げた。西宇部小開校前の厚南小の児童数は約1900人、46学級で、プレハブの教室も活用していた。西宇部小は約700人、19学級でスタートした。

地区の発展と密接な関わりを持つ宇部駅の開業は10（明治43）年7月。山陽線の船木（現・厚東）駅と小野田駅の間を整備され、旅客と貨物の輸送を始めた。宇部線の国有化後、現在の宇部新川駅が宇部駅、宇部駅が西宇部駅を名乗った時期もあるが、64（昭和39）年に現名称に再改称された。地元有志が79年に発行した「西宇部物語」によると、宇部駅は創設以来、施設の拡充と近代化によって飛躍的な発展を続けた。駅前商店街も次第に活気を見せたが、75年の新幹線の開通に伴い、宇部駅に停車する特急は大幅に削減され、長距離客の流れは小郡駅（現・新山口駅）に移動。地元商店街は少なからずその影響を受けた。

- 人口7133人（13位）
（男性3390人、女性3743人）
- 高齢化率37.5%
- 小学校児童数274人
※世帯数などは2022年4月1日現在

基本データ

- 面積5.29平方キロメートル（12位）
- 世帯数3485世帯

一方、70年代からは宇部駅の北側で宅地開発が相次ぎ、人口が急増。その後も第2期、第3期と

宅地開発が行われ、子育て世代が順次流入したが、現在は初期に居住を始めた人たちの高齢化が進んでいる。地区の高齢化率は37.5%で、この7年間に7.2%上昇。人口は600人ほど減った。

他の地区と同様、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化の進行が課題だ。地域づくりの旗振り役を担う同地区コミュニティ推進協議会は今年3月、まちづくり計画の改定を行い、地区の現状と課題を再整理した。朝倉孝吉会長は「誰もが健康で安心して暮らせる地域を目指す」とし、住民間の交流促進を図るための取り組みを思考する。